

令和5年度 学校評価の総括

香芝市立三和小学校

教育目標	自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成							
運営方針	知・徳・体の調和のとれた心身とも健康でたくましい児童の育成をめざすとともに、生涯学習の基礎となる教育実践に努める。							
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学習に対する意識の低さ（全国学力状況調査より。数値は上昇したが全体的には低い数値にとどまっている。） 児童の自尊感情が低い傾向にある（全国学力状況調査より。） 							
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 楽しいと感じる授業の創造。勉強を少しでも好きにさせる。 基礎学力の定着。低学力の児童も取り組みやすいスモールステップを用いた授業づくり。 自尊感情を高める体験・機会をつくり、全ての児童が何らかの自己肯定感や自己有用感を持たせる取り組みを行う。 							
教育活動や分掌等	評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標など	中間評価	期末	児童	保護者	成果と課題・改善策
学習	学力向上	基礎学力の定着	勉強が好きですと言える児童を70%以上にする。	2.9	2.9	2.9	2.4	「勉強が好きである」の設問に「そう思う」「ややそう思う」と答えた児童の割合は、68%であった。ただ、1年から4年の平均が76%であることから、5年6年で急激に落ち込んでいることが明らかとなった。来年度以降「勉強が好き」と言いづらい要因を探るとともに、「勉強ができた」と実感したり、達成したりできるような取り組みを続けていく。
		指導方法の工夫	どの児童も取り組みやすいスモールステップを用いた授業づくりをする。	2.9	3.1	3.4	3.3	どの児童も取り組みやすいスモールステップを用いた授業づくりを日々実践してきたので、児童や保護者は勉強でできないことやわからないことがあっても、少しずつできるようになったり、わかるようになったことを実感することができている。今後も、児童の実態に応じた、より細やかな取り組みを続けていく。
		読書指導の充実	国語科や休み時間の貸出を推進し、毎週1冊以上の本を読む児童を70%以上にする。	3.1	3.2	3.1	2.5	「うちどく」の取組をバージョンアップし、保護者の意識も変えていけるようにした。また、「えのほん広場」の取組も行えたことで、児童が読書に取り組む環境を整えることができた。本年度の取組を継続・改善することはもちろん、電子図書館の活用方法を検討するなど、児童がさらに読書に親しめる環境を整えていきたい。
研究	主体的・対話的で深い学びを実現する国語科学習の創造	国語科学習の指導法の工夫と向上	「書く」を中心に力を高める国語科学習の指導法や授業づくりの研究を進める。	2.7	3.2	3.1	2.5	「書く力」を高めることを中心として3本の校内授業研究に取り組み、研修を深めることができた。来年度は学年間の系統性をまとめていけるよう、単元を絞って授業方法の研究に取り組みたい。また、保護者の評価が低いことに関しては、「かくチャレ」の成果を家庭に持ち帰って見てもらうことで、取り組みについて周知していきたい。
			児童が取り組みやすいスモールステップを用いた「かくかくチャレンジ」の授業づくりをする。		3.1	3.2		児童が楽しめる教材づくりや雰囲気作りを先生方にいただいたことで、多くの児童が楽しんで取り組むことができた。書くことを好きにさせることが力を伸ばす上で大切なことであるため、来年度もこの部分を大切に取組を進めていきたい。
			児童の「書く」力を高めるような「かくかくチャレンジ」の授業づくりをする。		3.0	3.2		本年度の「かくチャレ」は、手探り状態の部分もあった。来年度は、本年度の取組内容を生かしつつ、学年間の系統性や学習指導要領の内容とのつながりを考えながら、児童の「書く力」をさらに伸ばすことができる取組をしていきたい。また、取り組みについて家庭への周知も行っていきたい。
体育	体力の向上	進んで運動に取り組む児童の育成	さわやかタイムを実施し、児童の体力の向上と運動の楽しさを感じられるような内容の充実をはかる。さわやかタイムに楽しんで取り組む児童85%を目指す。	3.3	3.5	3.5	3.2	「運動することが好きだ」の項目で児童の「そう思う」「ややそう思う」の合計が87%に達した。また、保護者のアンケート結果からも「そう思う」「ややそう思う」の合計が81%に達したことから、進んで運動に取り組んでいる児童が多く、保護者も学校の体力向上の取組について理解されていることがわかる。引き続き、進めていきたい。
						3.4	3.2	「さわやかタイムに楽しんで参加している」の項目で児童の「そう思う」「ややそう思う」の合計が86%、保護者の「そう思う」「ややそう思う」の合計が84%であった。各学期に行っていることもあり、保護者も理解があることが分かった。三和小学校の伝統的な行事として、今後も引き続き盛り上げていきたい。
人権教育	人権を尊重する心を育む	人権教育の充実	くらしの中にある様々な差別（障がい者問題など）や生命の大切さについて、正しい見方や考え方を育てる。	3.3	3.4	3.6	3.5	年3回の読み聞かせを行うことで、様々な問題について考えるきっかけになった。いろいろな領域の読み聞かせを行ったが、部落問題学習についての読み聞かせがあってもいいのではないかと。月1回の人権作文の放送は、子どもたちがさまざまな考えに触れるきっかけとなっているので継続していきたい。
		豊かな人間関係づくり	ちがいを認め合い、支え合うことのできるなかま集団を育成する。	3.1	3.4	3.3	3.1	学級や学年でカリキュラムに沿って様々な取り組みを行っている。配慮を要する児童の共通理解をする時間は他の学年の児童の様子を知ることができる良い機会となっている。すべての教師が子どもたちのことを共通理解し、同じ方向を向いていることが大切である。
道徳教育	豊かな心を育む	道徳の時間の充実	児童に豊かな心を育む魅力的な授業を展開する。	3.1	3.1	3.3	3.4	どの学級でも、板書を工夫しながら授業を進めることができた。今年度は、市の道徳研で、ICTを活用した公開授業を行った。子どもたちの意見を共有しやすくなり、考えを深めることができた。今後も週1回の道徳の授業時間を大切にいくとともに、魅力的な授業のために工夫していきたい。
特別活動	特別活動の充実	学級活動の充実	学級の一員として楽しく過ごせるよう、めあてをもち、協力して話し合いや集会などを行い、望ましい人間関係を築く。	3.1	3.1	3.4	3.4	教員の数値が中間・期末とあまり変わらなかったのが気になる。学校行事が忙しく、学級での時間が十分とれていなかったり、学級活動や学級会の持ち方が難しいと感じていたりするのかもしれない。学活については、学校全体で取り組んでいけるよう引き続き特活部から発信していきたいと考える。
		学校行事の充実	自分らしさを発揮し、めあてをもって集団への所属感や連帯感を深める活動を行う。	3.1	3.6	3.7	3.6	全体的に高めの数値が出ている。コロナ禍が明けて、以前のように学校行事を行うことができたことが大きい。どの学年も子どもたちがめあてをもって活動し、振り返りをして次に生かせるよう進めていくことができた。今後も継続して取り組んでいきたい。
健康安全	健やかな心身の育成	姿勢指導	児童にアンケートを行い、立腰やよい姿勢を意識している児童を70%以上に目指す。	3.1	3.1	3.1	2.9	姿勢指導で、子どもたちが取り組んだことを家庭に返すことで、学校の取組を保護者も理解し、声をかけてもらえたように思う。家庭への啓発にもなっている。来年度も取組を継続したい。また、学校保健委員会へ出席してもらえるようにしていきたい。
		給食指導	アンケートを行い、食事のマナーを守り、バランスよく食べる児童80%を目指す。	3.1	3.2	3.3	3.1	食事のマナーを意識できていない児童の姿がある。アンケートでも、マナーの項目がやや低かった。食器を持つ・米粒やソースなどついたまま返却しないなど、指導も多岐にわたるので、来年度は学期に1つずつ具体的な目標を示して指導していくことで、子どもたちにもマナーを意識させていきたい。
生徒指導	きまりを守りよりよく生活しようとする態度の育成	挨拶の励行	友達や教職員、来客者に挨拶や会釈をする習慣を身につけ、挨拶や会釈を意識する児童85%以上を目指す。	3.0	3.1	3.2	2.9	児童の約80%はあいさつをできていると感じている。しかし、教師目線では自分から挨拶をすることを頑張ってもらいたいと感じている。挨拶をしてもうつむいたままの児童もいるので、挨拶をする人と目を合わせるよう声をかけていきたい。
		掃除の徹底	掃除を熱心に取り組もうと意識する児童85%以上を目指す。	2.9	2.8	3.3	2.8	掃除開始までに掃除場所に到着できずに心を落ち着ける時間にも移動している姿もたくさん見られた。掃除中も慣れにくくと騒がしくなることもあった。もくもクリーニングや掃除前の心を落ち着ける時間の声かけを職員全員で徹底していく必要がある。
学校パートナーシップ	学校と地域との連携	地域との連携	学校と地域との連携を図る。	2.7	2.9	3.0	2.8	コロナ禍が明けて、様々な活動を再開することができた。中でも、地域と共に行う二上登山は遠足としてたくさんの方々が行うことができた。また本校の実態に合わせて今後のコミュニティのあり方をさらに追究していきたい。

【達】：評価指標を基準に1～4を記入（【評価基準】4：100～80% 3：79～50% 2：49～30% 1：29～0%）4：達成できた 3：ほぼ達成できた 2：やや達成できなかった 1：あまり達成できなかった